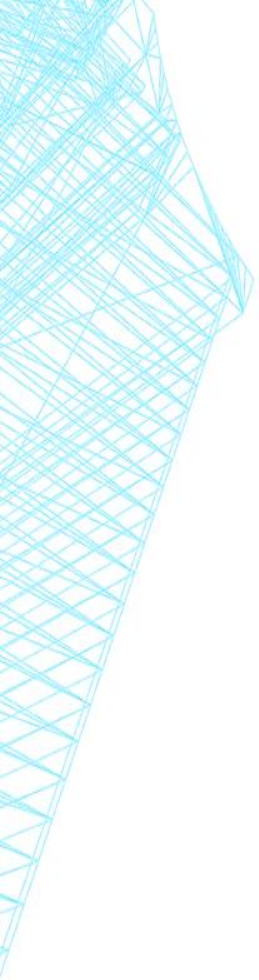


データ革命を巡る 国際的議論と SOCIETY5.0 IN TOKYO

2019年5月9日

山岡 浩巳

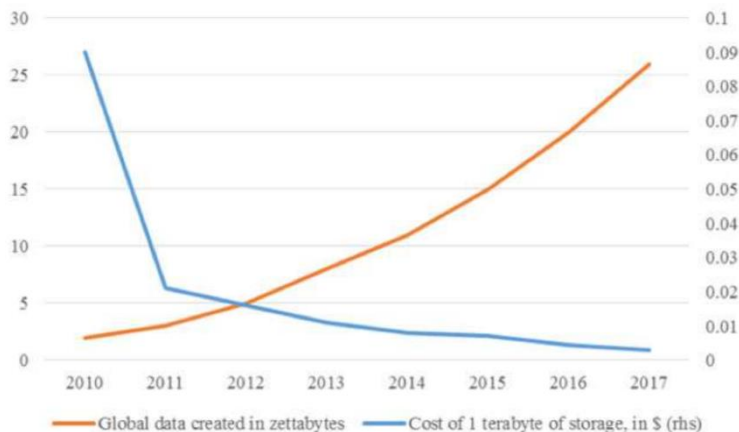


最近経験した国際的議論から 東京のSOCIETY5.0にとって 有益と思われるものを 簡単にご紹介します。

- あくまで資料としてご参照頂ければと思います（説明時間は不要です）。
- 以下の内容は必ずしも、FSBやBISなど国際機関の公式見解ではありません（あくまで、議論に参画していた筆者の解釈です）。

「データ革命」の時代

- 現在、世界に放たれるデータ量は飛躍的に増加し、その処理コストも大幅に低下している。
 - 現在、人々は、ウェブサイトの閲覧、eコマースの利用、SNS、ゲーム、スマホ写真の撮影などを通じて、大量のデータを毎秒生み出している。
 - ノルウェーのシンクタンクSINTEFは、「これまで創られたデータの90%以上は、過去たった2年間に生み出されたもの」と試算している。
- これらのデータをどのように集め、人々の生活の向上や経済の発展、さらには政策の進化に役立てていくか？



(注：FSB資料による)

東京のポテンシャル

■ 東京はまさにデータの宝庫！

——交通・物流・商流・医療・教育など大量のデータが生み出されている。

——これらのデータは、東京の人々の生活向上や政策の進化に寄与し得るだけでなく、東京以外の地域にとっても有益な資産となり得る。

■ 都は、世界でも有数の多様なサービスを提供している

- 基盤インフラ（警察、消防、水道、住宅、霊園など）
- 交通（都営地下鉄、都バス、都電など）、
- 医療（都立病院など）、
- 教育（大学、高等学校、中学校など）、
- 文化（動物園、水族園、美術館、都立博物館、図書館など）、
- 経済（卸売市場）

、、、、限られた紙面では列挙し尽くせないほど広範かつ多種多様。

——これらからは有益なデータを収集し得ると同時に、データを活用する場にもなり得る。



金融面からの国際的な関心

- FSB（金融安定理事会）は、キャッシュレス決済（スマートペイメント）と、MaaSなど広範なサービスを提供する新しい動きに注目し、報告書を公表。

——“FinTech and market structure in financial services”
（2019年2月公表）など

（<http://www.fsb.org/wp-content/uploads/P140219.pdf>）

——報告書作成の過程では、Go-Jek、Grab、PingAnなどアジアの企業も含め、データ活用に取り組んでいる新しいグローバル企業の協力も得た。